

2 未来を担うおやまっ子育成

	事務事業名	ページ
1	特別の支援を要する幼児就園措置助成金交付事業	P30

小山市教育委員会 点検・評価シート

令和4年度版

No. 9

1. 基本情報										
＜1＞事業・業務名		特別の支援を要する幼児就園措置助成金交付事業			＜2＞事業・業務の別		事業			
＜3＞選定基準		④ その他			＜4＞継続評価・新規評価の別		継続評価			
＜5＞ 総合計画 基本計画 での体系	大項目	3 未来を担う次世代の育成と 学び・文化を育むひとづくり			＜6＞担当部(局)		教育委員会			
	中項目	3-2 未来を担うおやまっ子育成			＜7＞担当所属		学校教育課			
	小項目	3-2-1 子育て支援			＜8＞担当係等		幼稚園係			
	施策	幼児教育支援								
＜9＞根拠法令・計画等		小山市特別の支援を要する幼児就園措置助成金交付要綱			＜10＞関連・類似事業					
＜11＞会計		一般 会計		＜12＞予算科目		10 款 1 項 3 目				
＜13＞実施期間		年度 ～ 年度		＜14＞全体事業費		千円				
＜15＞実施手法		補助金・負担金・貸付金等			「その他」の場合 ()					
2. Do - 実施 -										
＜16＞事業・業務の概要		私学助成幼稚園及び認定こども園教育部門に通う特別の支援を要する幼児に教育的支援を行うための経費の一部を施設に助成するもの。また、助成金を交付するにあたり、幼児教育指導員が施設訪問を行い申請幼児の状況確認や助言等を行うもの。								
目的	＜17＞事業・業務の目的	特別の支援を要する幼児の施設への受入れを促すとともに、特別の支援を要する幼児の早期発見対応に繋げる。								
	＜18＞事業・業務の対象	特別の支援を要する幼児が就園し教育的支援を行う私学助成幼稚園及び認定こども園。								
手段	＜19＞令和3年度の活動内容	幼児教育指導員が施設訪問を行い特別の支援を要する幼児が就園している施設に助成金を交付する。								
	＜20＞活動指標 (活動した量や実績)	指標名	単位	令和2年度		令和3年度				
				計画	実績	計画	実績	達成率(%)		
申請件数	人	150	113	150	130	86.7%				
成果	＜21＞事業・業務の成果	助成金を交付することにより特別の支援を要する幼児の受入を促進することができた。各施設へ訪問し助言等を行うことにより特別の支援を要する児童の早期発見、早期対応に繋げることができた。								
	＜22＞成果指標 (活動の成果の量や実績)	指標名	単位	令和2年度		令和3年度				
				計画	実績	計画	実績	達成率(%)		
助成金対象幼児数	人	50	50	50	50	100.0%				
資源	＜23＞投入指標 (投入するお金の量)	コスト実績	単位	令和2年度		令和3年度				
				計画	実績	計画	実績	投入率(%)		
		千円	7,649	6,714	7,637	7,254	95.0%			
		事業費等	千円	6,935	6,000	6,935	6,552	94.5%		
		財源内訳	国・県補助金	千円						
			地方債	千円						
			その他	千円						
一般財源	千円	6,935	6,000	6,935	6,552	94.5%				
人件費	千円	714	714	702	702	100.0%				
正職員	千円	7,132 × 0.1	7,132 × 0.1	7,012 × 0.1	7,012 × 0.1					
他の職員	千円 × 人役	×	×	×	×					

3. Check - 評価 -

実績評価	妥当性	<24> 事務事業を実施する目的や対象は妥当か？	1.妥当である
		<25> 事務事業を実施する手段や実施手法は妥当か？	1.妥当である
		<26> 事務事業の実施に対する市民ニーズはあるか？	2.変わらずにある
		<27> 今後も市が実施する事務事業として妥当か？	1.妥当である
	有効性	<28> 事務事業の成果の向上の余地はあるか？	1.向上の余地はある
		<29> (総合計画基本計画) 施策への貢献度は大きいのか？	2.中位
	効率性	<30> 事務事業の効率の向上の余地はあるか？	1.向上の余地はある
<31> 民間への外部化(民営化・業務委託等)は可能か？		3.不可能である	
公平性	<32> 受益者負担の水準は妥当だと考えられるか？	1.妥当である	
<33> 総合評価 (事業全体の改善の余地)		2.改善の余地はある	理由 本制度は障がい者手帳の交付を受けている幼児だけでなくグレーゾーンにある幼児についても助成金の対象となるが、年々申請件数が増えていることなどから相談員を増やすことが必要と考える。

4. Action - 改善 -

事業の改善	<34> 事業の課題 事業の改善点 今後の方針	助成金の申請件数が増えていることにより幼児教育相談員一人あたりの担当件数が増加していることから、今後、相談員の増員などの検討が必要である。		
事業の方向性	<35> 1次評価	所属長	1.拡大	理由 年々、特別の支援を要する幼児が増えていることから、助成金予算の増額及び幼児教育相談員の増員などの検討を行う必要がある。
	<36> 2次評価	教育部長	1.拡大	理由 特別の支援を要する幼児が健常児と集団生活を行うことで心身の発達に寄与することが重要である。また、特別の支援を要する幼児の私学幼稚園及び認定こども園への受入を促進するためにも本事業の充実が必要である。

5. Plan - 計画 -

事業の計画	<37>実施計画	特別の支援を要する幼児の就園を促すため、私学助成幼稚園及び認定こども園に対し適切に助成金を交付する。施設からの相談に対し適切な助言等を行う。				
	<38>活動・成果目標	特別の支援を要する幼児の受け入れ促進及び特別の支援を要する幼児の心身の発達の助長。	<39> コスト計画	単位	令和4年度 計画	令和5年度 計画
			事業費等	千円	6,740	6,740
人件費			千円	6,000	6,000	
			千円	740	740	

